

2 研究の実際

(1) 佐賀県学習状況調査から見える小学校国語科の課題

長年に渡り、小学校国語科の課題となっているのが以下の3点です。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域にかかわらず、課題となっています。

- ・目的や意図に応じて、条件に合わせて書くこと
- ・目的や意図に応じて、複数の内容を関係付けながら、自分の考えを書くこと
- ・目的や相手、表現様式や場面に具体的に応じること

「なぜ、課題となるのか」「なぜ、改善されないのか」「どうしたら改善されるのか」を追究するために、児童の解答を分析し、誤答傾向を考察して、課題点をより焦点化することにしました。

(2) 実態の把握

ア 平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]の結果の分析

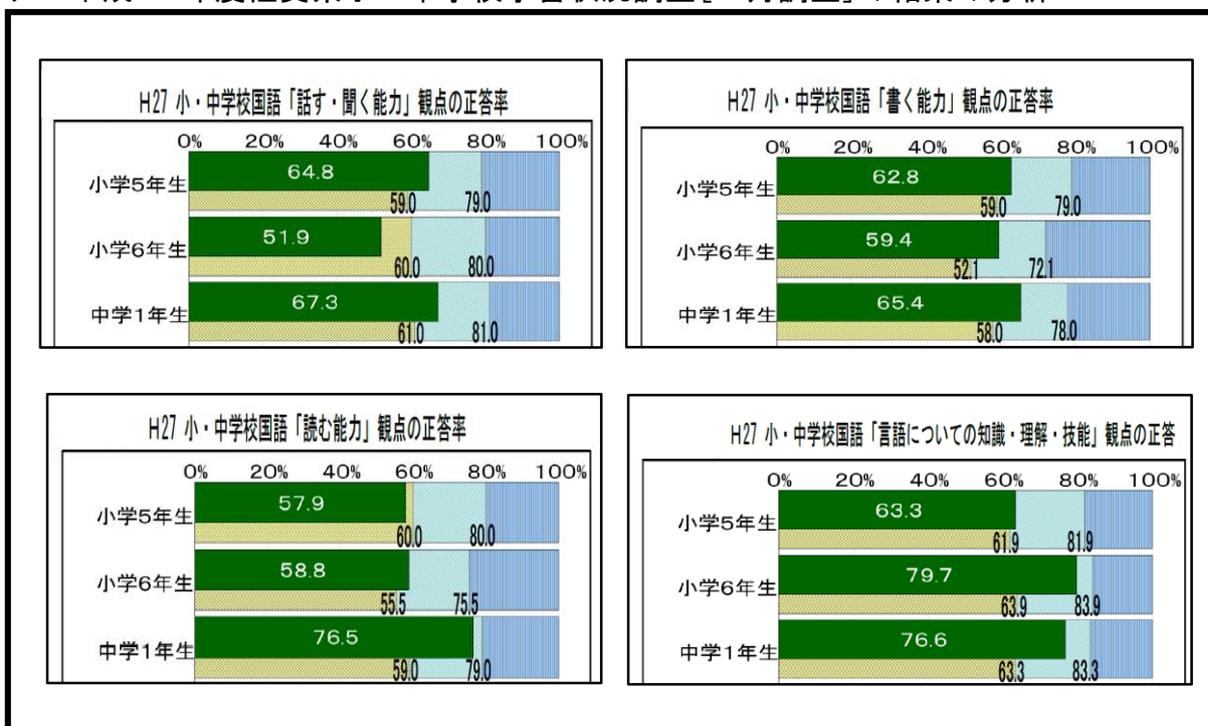


図1 平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査] 評価の観点別正答率

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査[4月調査]Web 報告書の国語科の評価の観点別正答率から、児童の実態を把握していきます。

小学校 5 年生の結果を見ると、「読む能力」だけが、「おおむね達成」の基準を下回っています。また、小学校 5 年生、6 年生においては、「読む能力」の正答率が他の観点に比べて、低いことが分かりました。

そこで、本研究では、「読むこと」の領域に焦点を絞り、児童の解答をより詳細に分析することにしました。

イ 解答類型を基にした児童の解答の分析

平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕の解答を、解答類型を基に分析しました。

【解答類型及び解答分析の例】

解答類型の例と解答の分析を以下に示しています。解答類型は、国立教育政策研究所が作成している全国学力・学習状況調査の解説資料を参考に作成しています。解答類型を作成し、分析することで、児童の誤答傾向を知ることができます。正答率だけでは見えてこない誤答の傾向を考察することで学校、学年、クラス、児童の実態を把握する手掛かりとなり、課題の焦点化を図ることができました。それは、同時に、私たち教師が授業を改善するポイントにもつながります。児童の誤答から、私たちは学ぶことができるのです。

※ 以下に解答類型と、解答類型を基にした児童の解答の分析を掲載しています。調査問題は、平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔4月調査〕です。調査問題については、著作権の関係上掲載することができませんが、佐賀県内の教職員の方につきましては、SEI-Net の諸調査集計・分析システムから閲覧することができます。

小学校 5 年生 文学的な文章の問題 (平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [4 月調査])

大問 3 - 三

○設問の趣旨
文章の中心に気を付けて読み、理由を挙げて感想を述べる

○学習指導要領における領域及び指導事項
〔第 3 学年及び第 4 学年〕
「読むこと」エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文書などを引用したり要約したりすること。
「読むこと」オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

○評価の観点
読むこと (活用問題)

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
3 三	(正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ①「赤いろうそく」と「花火」の両方の言葉を使って書いていること ②「赤いろうそくを花火だと思っていた」または、「楽しみにしていた花火なのに、とっさに耳も目もふさいでしまい、花火の音を聞くことも花火を見ることもできなかった」という趣旨の内容を書いていること ③「それは、…」に続けて書いていること (正答例) ・(それは、)赤いろうそくを花火だとかんちがいしていたからです。 ・(それは、)動物たちが、赤いろうそくが花火のように音を出したり、空に広がったりすると思っていたからです。 ・(それは、)赤いろうそくをさいごまで花火だと信じていたからです。 ・(それは、)赤いろうそくに火が付いて、とっさに耳と目をふさいでしまい、花火の音を聞くことも、花火を見ることもできなかったからです。 ・(それは、)動物たちは花火を見ることをずっと楽しみにしていたのに、赤いろうそくに火が付いたおどろきで、耳も目もふさいで、何も聞いたり見たりしなかったからです。		
1	条件①、②、③を全て満たしているもの	◎	54.2
2	条件①は満たしているが、条件②、③は満たしていないもの (例) ・(それは、)赤いろうそくのように空高く上り、とてもきれいな花火でした。		6.1
3	条件①、③は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例) ・(それは、)赤いろうそくから出る花火が美しいものだと思っていたのに、最終的には花火がこわくなったと思ったからです。 →上記の例は、話の内容が正しく読み取れていない。		6.1
4	条件①、②は満たしているが、条件③は満たしていないもの →文末に理由を表す「～から」がない。		1.1
5	条件②は満たしているが、条件①、③は満たしていないもの (例) ・(それは、)「みんなびっくりして草むらに飛び込み、耳をかたくふさいだ」と書かれていました。 ・(それは、)動物たちがずっとろうそくを花火だと思っていたところです。 →上記の例は、「赤いろうそく」「花火」の両方のことばを使っていない。		1.5
6	条件②、③は満たしているが、条件①は満たしていないもの (例) ・(それは、)動物たちが花火を見たがっていたのに、耳も目もふさいだから何も見えない聞こえないままだったからです。 →上記の例は、「赤いろうそく」「花火」の両方のことばを使っていない。		3.8
9	上記以外の解答(条件③は満たしているが、条件①、②は満たしていないもの) (例) ・(それは、)かめのほうがよく育てられているから。 ・(それは、)ししがほんとうにやっていたって火をつけてしまったところがびっくりしました。		14.0
0	無解答		13.3

○考察

最も多い誤答は、3つの正答条件を全て満たすことができなかった類型9のタイプでした。「物語の内容の理解が十分ではなかったのか」または、「設問の意図が捉えられなかったのか」、「条件に合わせて記述できなかったのか」のいずれかの理由によるものだと考えられます。また、正答条件別に見ると、条件②の内容の条件を満たすことができていない誤答の割合が高く、条件の①や③による誤答の割合は低いことが分かりました。

以上のことから、児童は、物語全体を俯瞰して読み、そこにある仕掛けや物語のおもしろさを感じ取る力に課題があることが考えられます。表現様式に応じることについては、日頃から条件付き作文による書き慣れや、「～から」と理由を付けて意見を述べることの指導により、少しずつ解決してきていると考えられます。また、無解答率が比較的高いことから、書くことに対する苦手意識や書こうとする意欲の低さが根底にあるのではないかと考えられます。

小学校 5 年生 説明的な文章 (平成 27 年度佐賀県小・中学校学習状況調査 [4 月調査])

大問 4 - 一

○設問の趣旨

中心となる語を捉える。

○学習指導要領における内容

[第 3 学年及び第 4 学年]

「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

○評価の観点

読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4 一	1 「特ちょう」と解答している。	◎	64.8
	2 「クワガタ(クワガタ虫)」と解答している。		22.7
	3 「つの」と解答している。		2.3
	4 「カブトムシ」と解答している。		2.3
	5 上記以外の解答 ・ひみつ、動物、からだ、はね		3.0
	0 無解答		4.9

○考察

キーワードを文章中から探すことができるかどうかを見る問題です。誤答を見ると、クワガタと解答しているものが最も多くなっています。クワガタの特徴が書かれた文章ではありますが、序論で「その特徴を調べてみましょう。」と書かれており、本論で「まず、一つ目の特徴は…」、結論で「このように、クワガタムシのからだの特徴は…」と書かれています。出題の箇所は、本論の「次に、二つ目の は、…」のところですが、段落ごとに読むのではなく、文章全体を読んで、段落相互の関係を捉え、繰り返し使われている「特徴」というキーワードを探ることが大切です。このことから、説明的な文章の構成の特徴や段落相互の関係を捉えることに課題があると思われます。

大問 4 - 二

○設問の趣旨

内容の大体を捉える。

○学習指導要領における内容

[第 3 学年及び第 4 学年]

「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

○評価の観点

読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4 二	1 ウと解答している。	◎	56.4
	2 イと解答している。		16.3
	3 エと解答している。		14.4
	4 アと解答している。		9.1
	0 無解答		3.8

○考察

内容の大体を捉え、事実を正しく読むことができたかを見る問題です。正答のウ以外は、文章中に書かれている内容です。最も多い誤答のイは、一文の中に、3つの内容が書かれており、内容を正しく捉えられなかったのではないかと考えられます。また、エは、「カブトムシに比べると」という内容が含まれており、カブトムシが主語の文であると間違っただけではないかと考えられます。主語に対する述語を正しく捉え、事実を正しく読むことに課題があると思われる。

大問 4 - 三

○設問の趣旨

段落相互の関係を捉える。

○学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕

「読むこと」イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。

○評価の観点

読むこと

○解答類型

問題番号	解答類型	正答	反応率(%)
4 三	1 エと解答している。	◎	52.6
	2 ウと解答している。		23.7
	3 イと解答している。		12.8
	4 アと解答している。		2.6
	0 無解答		8.3

○考察

段落相互の関係を捉え、文章全体の構成を理解できるかどうかを見る問題です。結論がどの段落なのかを問うていて、出題の表には、「終わりは、全体をまとめている。」と示されています。最も多い誤答のウの⑨段落には、「このような生活を…」と書かれており、⑨段落は、⑦、⑧段落のまとめとなっています。「このように(な)」という言葉のはたらきや、その言葉が指す内容が正しく捉えられていなかったのだと考えられます。また、文章全体の構成を捉えるときに、段落の内容を正しく読み、段落相互の関係を捉えることができなかつたのではないかと考えられます。文章全体を俯瞰して読んだ上で、段落の役割(話題提示・問い・説明・結論等)を押さえた指導が必要であると考えられます。

(3) 解答の分析から分かる課題の焦点化

以上のように、佐賀県小・中学校学習状況調査の「読むこと」の領域を中心に、解答類型を作成し、解答を分析していきました。そして、児童の誤答の傾向を考察した結果から、課題を焦点化していきました。以下の3つが、焦点化した課題です。

- 中心となる語や段落相互の関係を捉えること
- 求められた条件に応じて書くこと
- 文章を読んで、自分の考えを書くことや感想を述べること

(4) 課題の解決に向けて必要な力

上記の3つの課題の解決に向け、必要な力は何かを考えました。

- 説明的な文章の解釈に関して、段落相互の関係を捉えながら読む力
- 求められた様式に合わせて書く力
- 文章を読んで自分の考えを書く力

(5) 佐賀大学との連携

本研究に際して、佐賀大学と連携しながら研究を進めることになりました。小学校国語科部会では、佐賀大学文化教育学部達富洋二教授の御助言を頂きながら研究を進めていきました。その中で、学習状況調査の結果に見られる課題の解決に向け、国語科の授業として一番大切なことは何かを考えながら研究を進めていきました。

達富教授が、研究を進める中で御助言いただいた課題の解決に向けた授業改善策のポイントや、単元で力をつける小学校国語科の授業の在り方について、**3 授業改善に向けてー「単元で学ぶ」**
授業改善のポイントー 達富教授の「学びどき・教えどき」で紹介しています。